

# 若社員 座談会

これからを、つくる。

新生・安藤ハザマの使命——

それは不断の挑戦と変革による新しい未来の創造であり、  
そのために求められるのはたゆみない進化である。

そしてその新会社の“これから”をつくっていくのは、若い世代にほかならない。

今回、建築、土木それぞれの現場で、施工管理の仕事に携わる、  
新入社員とほぼ同世代の先輩に集ってもらい座談会を開催。

自分自身のことに加えて、安藤ハザマとはどんな社風なのか、  
どんな人が働いているのか、そしてどんな魅力があるのかなど、  
安藤ハザマの“今”をフランクに語ってもらった。

その言葉の端々にあったのは、自分たちが安藤ハザマの「これからを、つくる。」という想い。  
彼ら若い世代の力が、安藤ハザマの未来を切り拓いていくのである。

2009年入社

市川 達也

首都圏建築第一支店  
工事第二部  
工学部建築学科卒

2013年入社

程原 恵多

首都圏建築第一支店  
工事第二部  
工学部建築学科卒

2010年入社

置田 彩

関東土木支店  
土木部  
理工学部土木工学科卒

2013年入社

岡本 健

関東土木支店  
土木部  
工学部都市工学科卒



## 就職活動で感じたこと、考えたこと 新会社の誕生が与えたインパクト

**市川** 就活のときに考えたのは、着工から竣工までを手がけ、ものづくりの喜びを手にしたということ。それが実現できる可能性のある会社を中心にアプローチしました。その中で安藤ハザマ(旧安藤建設)は、会社説明会で先輩社員と話す機会があり、その活き活きとした姿とアットホームな雰囲気に惹かれて入社を決めました。同じ現場の後輩である程原さんは当社のどこに惹かれましたか。

**程原** 市川さんが言ったアットホームさは、私も感じました。和気藹々とした雰囲気があり自分に合っている、働きやすいと思ったのです。また、私が学生時代によく利用したショッピングビルは、安藤ハザマが手がけたもので、建築を専攻する学生にとって、とても魅力的なビルでした。そのことも入社を後押ししたと思います。

**鹿田** 私は幼い頃からトンネルが好きでした(笑)。トンネルを抜けたときのワープ的な感覚が好きだったのです。やがて、土木のスケールの大きさ

や社会貢献度の高さ、人の役に立つ仕事であることに惹かれ、土木の施工管理を志望しました。

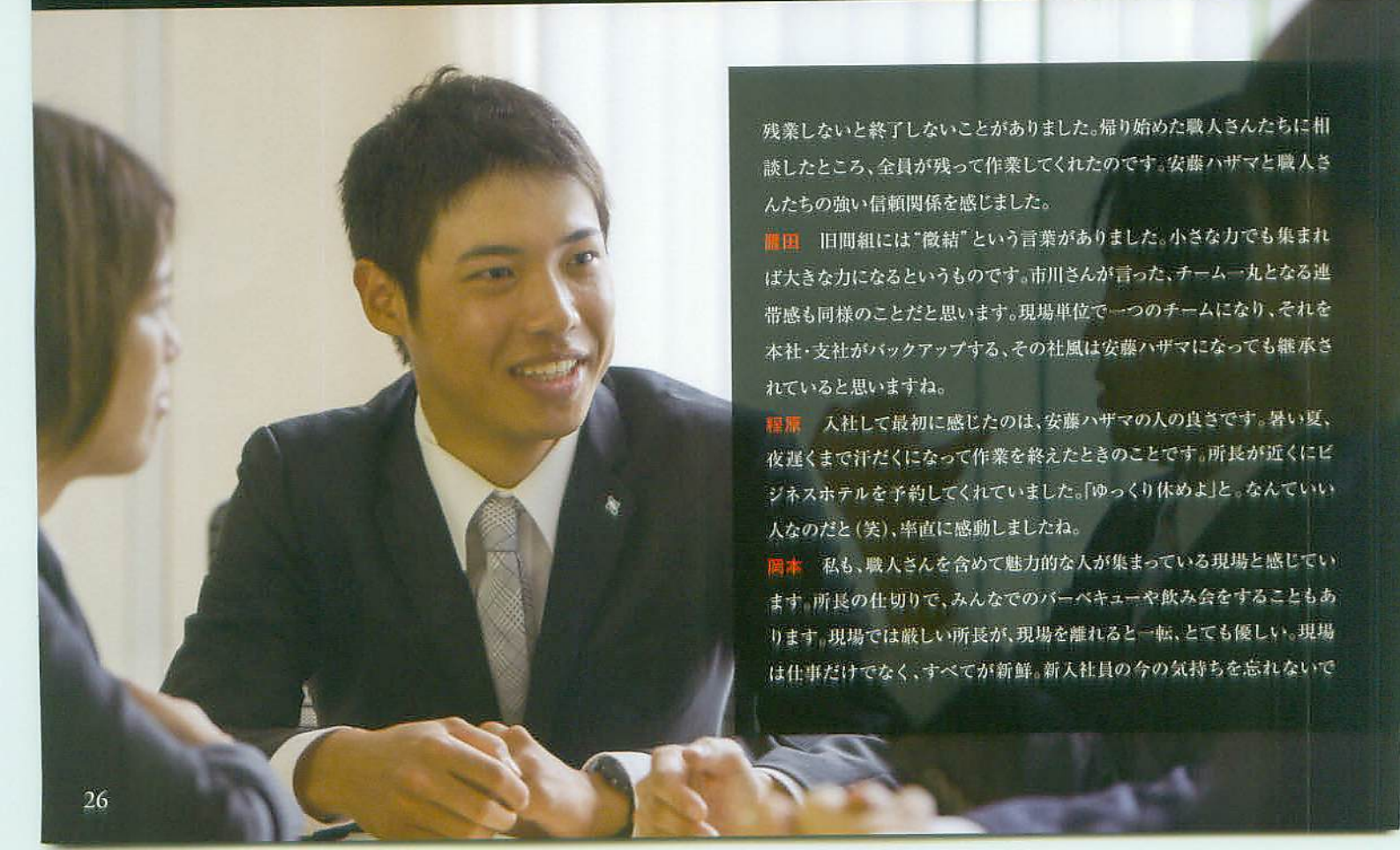
**市川** でも、実際の就職活動はどうでしたか。女性で土木の施工管理を志望する人は少ないと思いますが。

**鹿田** ええ、女性はいらないとはっきり言う企業もありました。でも安藤ハザマは、女性の活躍に期待していること、今後女性の施工管理を増やしていくことなど、採用に積極的でした。当時、女性の施工管理の方にお会いする機会もあり、その輝いている姿を見て、ここならやっていけると感じて入社を決めました。岡本さんは、確かほとんど就活をしていないと聞きましたが。

**岡本** はい。というのも、大学の授業の講師が元組員の社員の方で、黒四ダムの話から始まって、講義の内容がほとんど組員の話でした(笑)。「挑戦する会社・ハザマイズム」のようなものを叩き込まれましたから、就職はここしかないと思っていました。

**鹿田** 新入社員の二人は、合併の話はどのように受け止めましたか。

**岡本** 内定が出てから合併が決まりましたから、不安があったことは確かです。ただ多くの会社で第一期生というのは、上に立つ人が多いと聞きま



残業しないと終了しないことがありました。帰り始めた職人さんたちに相談したところ、全員が残って作業してくれたのです。安藤ハザマと職人さんたちの強い信頼関係を感じました。

**鹿田** 旧組には「微結」という言葉がありました。小さな力でも集まれば大きな力になるというものです。市川さんが言った、チーム一丸となる連帯感も同様のことだと思います。現場単位で一つのチームになり、それを本社・支社がバックアップする、その社風は安藤ハザマになっても継承されていると思いますね。

**程原** 入社して最初に感じたのは、安藤ハザマの人の良さです。暑い夏、夜遅くまで汗だくになって作業を終えたときのことです。所長が近くにビジネスホテルを予約してくれていました。「ゆっくり休めよ」と。なんていい人なのだと(笑)、率直に感動しましたね。

**岡本** 私も、職人さんを含めて魅力的な人が集まっている現場と感じています。所長の仕切りで、みんなでのバーベキューや飲み会をすることもあります。現場では厳しい所長が、現場を離れると一転、とても優しい。現場は仕事だけでなく、すべてが新鮮。新入社員の今の気持ちを忘れないで

したので、そうなれるのでは、とも感じました。

**榎原** 合併の話は当初驚きましたが、建築と土木がコラボレーションして新しい価値が生まれる期待感の方が大きかったですね。周囲から、一期生であることの意義や魅力を指摘されることが多く、一期生の誇りを持って頑張ろうと思いました。

## チーム一丸となる連帯感 培われてきた支えあう社風

**市川** 私は安藤ハザマの特徴は、チーム一丸となって竣工を目指す連帯感にあると思います。竣工日前のある現場でのことです。翌日の検査に備えて掃除をする必要があり、「今から掃除をします」と声をかけたところ、隣の安藤ハザマの現場の人も箒を担いで駆け付けてくれました。職人さんも含めて総勢30人。現場の“絆”を感じましたね。「安藤ハザマのいいところだね」と職人さんに言われて嬉しかったのを覚えています。

**岡本** 1年目の私でも同様のことを感じます。現場で工程に遅れが出て、

いたいと思います。

**市川** 私が入社1年目のときの現場は、規模が大きかったため、現場にキッチンがありました。先輩が「市川、今日はカレー、明日は鍋にしよう」と食事作りに張り切っていたのが印象に残っています。みんなで一緒に食事をして、ものをつくっていく。「現場っていいな」と実感しました。

**黒田** 一般社員と管理職の縦のラインの短さを感じます。かつて支店オフィスに勤務していたとき、その支店長は「元気が、ご飯食べているか」とみんなのことを気にかけてくれました。だから、フランクに相談しやすい環境でした。自分のやりたいことを発信すると、「やってみたら」と言われることが多く、チャレンジできる風土があるのも安藤ハザマの魅力と感じています。

## 進化に向けてスタートを切った新会社 それを牽引していく意欲と情熱

**市川** 合併して安藤ハザマが誕生しましたが、私が最初に思ったのが、旧間組に「負けたくない」(笑)ということ。競い合う仲間という意味で、仕事

を通じて感じるのは、書類やシステムに未整備な点があることを除けば、合併のインパクトは少ないということです。社風も含めて、似ている部分が多かったのだと思います。

**黒田** ええ、私もそう思います。今回の合併はよく知っている幼馴染が結婚したようなもの。ただ合併による社名変更で感じたのは、一抹の淋しさです。私は旧間組の“組”という言葉が好きだったから(笑)。でも、先日、旧間組と旧安藤建設で同期の飲み会をやって気付いたことがあります。両社とも人を思いやる、優しい人が多いということ、いい人が集まった会社なのだと、改めて思いました。

**榎原** 旧安藤建設と旧間組の若手が集まって行う懇親会である「若手の会」が新鮮でした。様々な部署で、両社の人材交流は進んでいますが、「若手の会」のような、部署間の垣根を越えた人と人との交流は結束を強くすると思いますね。

**岡本** 私もそう思います。若手が集まるというところがいいですね。率直に話ができますし、「若手の会」に集った面々がこれからの安藤ハザマをつくっていくと思うと、自分も頑張ろうとモチベーションが上がりますね。

## 若手 社員 座談会

これからをつくる



**市川** 今後、私たちの施工現場でも両社の人材の融合は進んでいくと思います。両社が培ってきた独自の技術力やノウハウが人の交流を通して連携・統合していく、その過程で会社が進化していくことが楽しみです。私たち若い世代がその進化を牽引していく必要があると思っています。

## 挑戦できる、成長できるフィールド 新しい歴史を自分たちが築いていく

**窪田** 他社で、現場の副所長になった女性がいます。私はその上を目指したい。入社のと時から、安藤ハザマ初の女性の土木現場所長になることを目標にしています。みなさんも、やはり現場所長になることが目標だと思いますが、

**市川** そうですね。所長としてビッグプロジェクトを手がけたい。そのためにも経験を積むことに加えて、興味、好奇心を持ち、多くのことを吸収していきたいと考えています。

**程原** まだ入社1年目で所長になるのははるか彼方のことですが、全責任を担って現場を指揮する現場所長は憧れです。商業施設など、多くの人に利用され喜んでもらえるような物件を手がけたいと思っています。

**岡本** みんなが気持ちよく働ける現場、そんな環境を作れる現場所長に

なりたいですね。ゆくゆくは、社員全員が気持ちよく働ける会社になりたい。夢は大きく、社長を目指します(笑)。

**市川** 当社の施工管理は、最初から竣工まで関わってものづくりの達成感を味わえるのが大きな魅力。その実感を得たい人は、是非当社で力を発揮してもらいたいと思いますね。

**程原** ええ、私も入社1年目にして、ものができあがっていく喜びを実感しています。加えて当社は、早い時期から責任ある仕事を任せてもらえます。早く成長できる環境だと思いますね。

**岡本** 私もそのように感じています。自分を成長させたいと思っている人には、絶好のフィールド。多くのことが経験でき、意欲さえあれば、挑戦させてくれる会社です。1年生であっても「やれます」と言えば任せてもらえる、だからやりがいも生まれるのだと思います。

**窪田** 最後に学生の方へ一言。当社は、生まれ変わったばかりの会社です。これから、自分たちの力でより良い会社をつくっていくことができる。新しい歴史を築いていくことができる。私たちの世代やこれから入社してくる人は、その“主人公”なのです。私たちと共に、新しい安藤ハザマをつくっていきましょう。情熱と熱意あふれるみなさんと、一緒に働けるのを楽しみにしています。

(座談会開催/2013年秋)



これから活躍する  
若手社員座談会